

行政調査報告

議員会会長 石田彬良

宮城県栗原市と秋田県美郷町を調査

11月17・18日の2日間にわたり全議員による行政調査を実施しました。

昨年3月11日の東日本大震災で当町では多くの被害を受けました。特に町民生活の核となる役場本庁舎、小川庁舎は建物の全壊には至りませんでしたが大被害を受けました。

現在、庁舎建設等検討委員会において、新庁舎建設に向けて協議が進められておりますが、議会としても独自に先進事例を視察研修することになり、地元木材を利用した庁舎を建設された宮城県栗原市栗駒総合支所を視察しました。

栗原市は宮城県の北方に位置し、岩手県、秋田県との県境にある栗駒山の裾にあり、平成17年4月に旧栗駒町など10町村が合併して栗原市となりました。人口

は約75000人、面積は約805平方キロメートル、平成23年度一般会計当初予算413億3000万円（内自主財源は22・6パーセント）で旧町村ごとに支所を置き、住民サービスを低下させない努力をしています。

今回訪問したのは、その中の一つ栗駒総合支所で、平成15年に発生した三陸南地震で旧栗駒町役場が大きな被害を受けたことから、新庁舎を建設しました。

当初、庁舎建設基本構想では木造建築は考えていませんでしたが、選定された設計者の提案を受け、地元材を活用できる大断面集成材の構造が良いとしたことや、町所有の山林には、庁舎に利用できる木材が豊富なことから木造建築庁舎の建設に踏み切ったものです。総工費8億621万4000円です。その財源は災害復旧事業債及び一般財源を充当しております。

また、その他の特色としては、地元産材を利用した

木造構造のほか太陽光発電、トイレの雨水利用など環境に配慮された庁舎です。



木造建築の栗原市栗駒総合支所

次に視察した秋田県美郷町は、平成16年11月に旧千畑町、六郷町そして仙南村の2町1村が合併した町で、平成3年に旧小川町と旧仙南村との間で始まったまほろば太鼓などの文化交流が現在も続いています。

人口は、約22000人、面積167平方キロメートル、平成23年度一般会計予算111億4000万円（内自主財源は22パーセント）です。

美郷町の誕生時に町総合計画を策定し、町民の一体

感の醸成と行政課題の解決に向け取り組みました。昨年度からは後期計画により各事業を進めていて、前期計画に引き続き「農商工連携」「子ども育成」「水環境保全」「交流促進」「安全安心」の5項目からなる、町づくり戦略プロジェクトを中心に展開しています。そして、「町民のだれもが住んでよかった。住みつけたいと思えるまち。」を指した事業を行うことで「絵に描いた餅にならないよう取り組む決意である。」と、力説されたのが印象的でした。当町でも大いに見習うところがあると実感しながら帰郷しました。



水文館・水の学習室(美郷町)を視察

常任委員会所管事務調査報告

総務企画常任委員会

委員長 橋本 操

木造庁舎及びバイオマス発電事業

10月31日から11月1日の2日間、先進事例調査のため埼玉県宮代町と群馬県東吾妻町へ所管事務調査を実施しました。

「宮代町役場庁舎」は、平成17年に完成した床面積4242㎡（一部RC造）の木造庁舎です。

その特徴は、県産スギを集成材として多く利用し、南壁面をガラス張りにして自然光による明るさと冬の暖房効果の確保を行い、太陽光発電やトイレへの雨水利用など、環境にも配慮した構造となっています。

また、庁舎内に広いオープンスペースを確保し、それを住民や地域団体に開放して自由に利用できる様にもしています。

温もり・明るさ・使いやすさ、いずれも今後の庁舎建設を検討する際に参考に

なるものと思います。

次に、木質チップによる発電を行う「(株)吾妻バイオパワー」を視察しました。当町に進出した企業において、バイオマス発電の計画がある事から実施をしたものです。

町の新エネルギー施策の推進はもちろん、これまで利用価値が低いとされ、山に放置されてきた間伐材などの木質チップ燃料への有効利用が期待できます。

いずれも森林資源を多く有する当町にとって、参考となる有意義な調査となりました。



温もりを感じる木造庁舎(宮代町)

■産業建設常任委員会

委員長 阿久津武之

彩り(葉っぱ)事業と

四万十川を調査

(11月24・25日)

徳島県上勝町は、人口約2000人で、65歳以上の高齢者が49・5パーセントと高齢化と過疎化が進んでいる町です。

この町の葉っぱビジネスは、高齢者や女性でもできることは、何かないかという事で、昭和56年に農協などが主体となって始まりました。

今では懐石料理やお弁当などに添えられている、「南天」や「もみじ」などの葉っぱが、農協を通じ全国の市場に販売され、中にはその販売額が年間1000万円を超えるという方もいるとのこと。

当町においても少子高齢化が進んでいます。高齢者の皆さんが楽しみながら働ける事業にも、取り組んでいく必要があると思います。

次に、高知県の四万十川の調査では、那珂川との違

いについて調査して来ました。町内を流れる那珂川も、清流と言われていますが、四万十川はそれ以上に、川エビや青のりが採取されるほどきれいで、水量も豊富な川でした。

また、四万十川には沈下橋が21箇所も架けられていて、8トン車まで通行が可能ということ。

3月11日の東日本大震災で被災し、通行不能となった新那珂橋の再建についても、費用の面からして沈下橋も検討に値するものと考えます。



上勝町で「葉っぱ」事業の調査

広報モニターさんのご意見・感想が、このように活かされています。

No.1

項目	広報モニターさんからのご意見・感想	改善したところ
表紙について	<ul style="list-style-type: none"> ・那珂川町の自然が写されていて良い。 ・季節にあった写真で良い。 ・町の風景なので、これからも続けて欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表紙の写真は、町民の皆さんに応募していただいた作品の中から、那珂川町の自然や風景、季節感のある写真を採用しています。
	<ul style="list-style-type: none"> ・目次の表示は、具体的内容で表示した方が後で探しやすい。 ・「なかがわ」というタイトルは、町広報と同じなので「議会だより」の文字を大きくした方が良いのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表紙に主な内容を表示することにより、表紙を見て内容が把握できるように工夫しています。 ・合併後第1号から第10号までは、表紙のタイトルを「議会だより」として編集していましたが、イメージを変えるということで、現在は議会だよりを小さい文字で表し、タイトルは「なかがわ」としています。
文字・見出し・写真の配置について	<ul style="list-style-type: none"> ・見出しはもう少し大きい文字で。 ・文字が小さくて高齢者には見にくい。 ・写真を多く使用することで目を引くので良いと思う。 ・文字が小さい。内容を精査し記事数を減らし文字を大きくした方が良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文字が小さく高齢者に見にくいとのことなので、見出しなどは出来るだけ大きな文字を使用するようにしています。 ・今月号の主な記事の内容がわかるよう、インパクトのある見出しをつけることや見出しの文字を大きくすることなどタイトルにも重点を置いています。 ・条例の改正や予算などの見出しについては、わかりやすくするため、毎回同じ形式をとっています。 ・出来るだけたくさんの写真を掲載するようにして、写真を見ることである程度、記事の内容や状況がわかるようにしています。 ・ページの都合によって、内容が詳細に掲載できない場合があるので、表やグラフを利用し理解しやすいようにしています。